

キャリア教育新聞

No.21

2026年 10月
発行

共創共学
プラットフォーム
(塩尻市教育委員会委託事業)

他地域におけるまちづくりの実践に触れ、自分たちの故郷を見つめる

檜川小中学校では、毎年、下諏訪のまちづくりを学ぶ研修を行っている。今年度も7年生が研修に向け、事前学習としてインタビュー講座を実施した。

講座では、訪問先の人や取り組みについて事前にリサーチし、質問内容を考えたほか、生徒同士でテーマを決めてロールプレイングに挑戦した。

実際にインタビューを体験することで、相手の話をさらに深く掘り下げることの難しさや、事前に調べておくことの重要性に気づく機会となった。こうした準備を重ねたことで、当日は自信を持ってインタビューに臨むことができたという。

研修では、まちを賑やかにするために活動する大人たちから、取り組み内容だけでなく、その背景にある想いや価値観を聞いた。地域で挑戦する人々の姿に触れ、自分たちのまちに重ね合わせながら、故郷の未来について考えることがねらいである。

研修後は、学びを「ならだいフェスタ」で全校や地域の人々に向けて発表する予定だ。



インタビュー講座の様子（檜川小中学校）

キャリア教育とコミュニティ・スクール

共創共学プラットフォームが作られて三年目。学校の実情により、活用している学校もあれば、小学校ではあまり活用されていないところも多い。ただ、キャリア教育を通して育成する「基礎的・汎用的能力」については、キャリア教育に限らず今の時代に生きる子どもたちにとって大切な能力であることは、周知のとおり。

今年で十一年目になったコミュニティ・スクールの活動は、学校と地域の連携により、子どもたちの学びや先生方の学びを支え、「年ごとに積み上げてきている。その活動をキャリア教育の視点で、今の地域と連携している活動の学び方、関わり方を見返すことで、よりねらいをはっきりさせ、学びを深められることもあるし、新たな学び方、関わり方を考える機会にもなり得る。

今こそコミュニティ・スクールの中での地域や保護者とのつながり、プラットフォームの地元企業とのつながりの可能性を生かして、小学校から中学校への育む力を系統的に考えていけるようにしたい。そのためには学校現場を知り、地元の地域の情報の積み上げもあるコーディネーターの役割は大きい。PEの活動についてコーディネーターも一緒に関わり、学びを深めていけるよう、各学校でのつながりを大事にしていっていただきたい。

共創共学プラットフォームメンバー紹介

学校教育課教育企画係
地域連携コーディネーター 三溝 裕子

学校教育課教育企画係地域連携コーディネーターの三溝裕子です。コミュニティ・スクール(CS)推進担当です。今年度よりCSの窓口としてPEに関わらせていただいています。CS活動とキャリア教育の関連は様々なつながりがあり、担当者同士で共有し合える部分はたくさんあると感じています。学校現場でも「これはCS」「これはキャリア教育」というように分けているわけではないと思います。地域や企業など様々な大人の力を借りて子どもたちの学びや成長を支えていく、また、子どもと大人が一緒に創っていくという過程の中で、子どもも大人も生き生きと取り組み、つながりを深めていくことが、元氣な地域につながっていくと思っております。様々なつながりや学び(遊び)の可能性を見つけ、支えていきたいです。

なんで?そんなに「探究」っていうの

新学習指導要領の施行以来(小学校では今年目、学校の教育活動には「探究的な学び」が求められるようになった。この言葉を聞いて、多くの先生方が真っ先に想起したのは、自身が小学生的頃に夏休みの宿題として課せられた「一人研究」ではないだろうか(頭によぎるのは、当時の少し負担に感じた記憶かもしれない)。

問いを立て、情報収集を行い、結果を分析して結論を導く。この一連の過程の中で、子どもたちに本当に身につけさせたい力とは何なのだろうか。それはやはり「問いを立てる力」にほかならない。

教科や日常生活の中にある事柄に対して疑問や違和感を抱き、それを「自分事」として捉える精神活動は、先行き不透明なVUCAの時代にあって、まさに「生きる力」そのものと言われている。そのような思考のクセを日々の学校生活の中でトレーニングしていくこそ、今、教育の場に求められている役割なのではないだろうか。

ちょこっと探究コラム

◆お問い合わせ

共創共学プラットフォーム事務局 (NPO法人MEGURU)
塩尻市教育委員会事務局学校教育課 (0263-52-0280 内線:3112)